

【原 著】

教育指導者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響

Effects on Learning Needs of Learning Support Provided by Educational Instructors

土肥 美子¹⁾, 細田 泰子²⁾, 長野 弥生²⁾
片山由加里³⁾, 北島 洋子⁴⁾, 根岸まゆみ⁵⁾

Yoshiko Doi¹⁾, Yasuko Hosoda²⁾, Yayoi Nagano²⁾
Yukari Katayama³⁾, Yoko Kitajima⁴⁾, Mayumi Negishi⁵⁾

キーワード：教育指導者，看護学生，新人看護師，学習支援，学習ニーズ

Key Words : educational instructor, nursing student, novice nurse, learning support, learning needs

抄録

〔目的〕教育指導者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響について明らかにすることである。〔方法〕全国の200床以上の一般病床を有する101病院の教育指導者1,153名を対象に、質問紙調査を実施した。調査内容は、学習支援、学習ニーズ、個人背景である。データの分析は、確認的因子分析で学習ニーズの構成要素について確認後、「看護学生の指導経験を有する教育指導者」と「新人看護師の指導経験を有する教育指導者」の学習支援が学習ニーズに与える影響について、多重指標モデルにて検討した。〔結果〕確認的因子分析の結果、教育指導者の学習ニーズが〈道具デザイン〉〈組織デザイン〉〈活動デザイン〉の3因子で構成されていることが確認された。「看護学生の指導経験を有する教育指導者」および「新人看護師の指導経験を有する教育指導者」の学習支援から学習ニーズへのパス係数は全て有意を示し、各モデルの適合度指標は良好であった。〔考察〕教育指導者が行う看護学生と新人看護師への学習支援が、高い学習ニーズにつながるものがうかがえる。

Abstract

Objective: This study aims to clarify the influence on learning needs of learning support provided by educational instructors. **Methods:** A questionnaire survey was completed by 1,153 educational instructors of 101 hospitals nationwide with 200 or more general beds. The investigation content included learning support, learning needs, and demographic characteristics. After confirming the components of learning needs through confirmatory factor analysis, a multi-index model was used to examine the effects on learning needs of learning support provided by “educational instructors with experience teaching nursing students” and “educa-

1) 大阪医科薬科大学看護学部, 2) 大阪公立大学大学院看護学研究科, 3) 同志社女子大学看護学部

4) 宝塚大学看護学部, 5) 静岡県立大学看護学部

tional instructors with experience teaching novice nurses.” **Results:** Confirmatory factor analysis revealed that the learning needs of educational instructors consisted of three factors: tool design, organizational design, and activity design. An examination using the multiple indicator model found that the path coefficients from the learning support to the learning needs of “educational instructors with experience of teaching nursing students” and “educational instructors with experience of teaching novice nurses” were all significant, and that the goodness of fit index of each model was good. **Discussion:** This study suggests that learning support for nursing students and novice nurses provided by the educational instructors leads to high learning needs for educational instructors.

I. はじめに

わが国では、地域包括ケアシステムの構築や高度化する医療技術への対応、医療安全の確保、新興感染症への対応などの数多くの保健医療課題を抱えており、これらの課題に対応できる看護職の養成がより一層求められている（厚生労働省、2020）。看護職が様々な健康課題に対応していくためには、看護実践を導くための認識や判断力が必要とされることから、看護学生や新人看護師の看護実践能力の育成・向上のためには、彼らの教育指導を行う教育指導者による適切な学習支援が必要である。

National League for Nursing (2022) は、看護職の育成に関わる教育者を看護教育者と総称し、大学の看護教育者および臨床の看護教育者に対するコア・コンピテンシーを開発している。臨床の看護教育者においては、臨床現場での学習の促進が主な役割であり、“教育およびヘルスケア環境内での機能”を含む6つのコア・コンピテンシーが示されている。土肥他（2018）は、看護技術演習に参加した教育指導者が学生理解や指導方法に関する学びを深め、それらの学びを実習指導やスタッフ指導に活用していることを報告している。長野他（2019）においては、教育指導者が新人看護師と看護学生の学習レベルを判断し、学習環境や学習状況に応じた支援を行っていることを説明している。また、Sadeghi et al. (2019) によると、教育指導者は看護学生の臨床能力を向上させるうえで重要な存在であるが、臨床能力や教育方法のあり方によって、看護学生の臨床能力の形成および発達の阻害要因になり得ると述べている。Jafarian-Amiri et al. (2020) の調査では、

看護学生が臨床現場で文化的課題や環境組織的ストレス、効果のない臨床教育などの課題に直面しており、教育指導者や臨床の管理者による学習支援が必要であることを指摘している。国内外問わず臨床現場における看護の学習者には教育指導者による適切な学習支援が必要であることがうかがえる。

教育指導者の学習ニーズに関する研究では、酒井他（2015）によって、看護過程や実習記録に関する困難さを感じ、実習での指導法に関する基本的な知識や実際の事例や学生の意見をもとにした学生への関わり方に関する学びを必要としていることを論じている。また、医療機関における看護職の教育プログラムの企画・運営を行う責任者である教育責任者と教育指導者を対象にした調査（土肥他、2016）では、教育責任者の方が教育指導者より“教育指導者の学習の必要性”を高く認識し、“教育指導者の学習方法”では、教育指導者の方が教育責任者より“専門家からの学び”を必要とすることが明らかにされている。これらのことから、教育指導者の学習ニーズが自らの教育実践と関連することがうかがえる。河上（2010）の“教師が自らの課題と感じている事柄、それは教師の学習ニーズの一端を示している”という指摘をふまえると、教育指導者にとっての学習支援は、臨床現場における教育課題であり、学習ニーズは、その課題を解決するための学習の必要性についての認識であるといえる。また、成人学習者は直面している課題や関心事に対して学習ニーズを抱く傾向がある（Knowles, 1980/2012）ことから、学習支援が学習ニーズに影響を及ぼすことが推測される。さらには、指導者の学習ニーズの充足

が学習支援をめぐる諸課題の解決につながることを期待される。

以上をふまえ、教育指導者の学習支援が学習ニーズに及ぼす影響を明らかにすることは、彼らの育成支援に関する指導方法充実のための実践資料になり得ると考え、本研究に取り組むこととした。

II. 目的

本研究の目的は、教育指導者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響について明らかにすることである。

III. 用語の操作的定義

教育指導者（以下、指導者）は、医療施設の各部署で看護学生（以下、学生）や新人看護師（以下、新人）の教育指導を行う看護職（長野他, 2019）とし、学習支援は、指導者が学生や新人の看護実践能力育成・向上のために行う働きかけとした。学習ニーズは、指導者が学生や新人という学び手の教育指導を行うために必要とする学習（土肥他, 2015）とし、学習環境デザインは、学生や新人という学び手の学習活動のために、それに関わる人々の組織・活動・道具をデザインすること（土肥他, 2015）と定義した。

IV. 仮説モデルの設定

指導者の学習支援や学習ニーズに関する報告が少ないため、看護の教育者という観点から、看護基礎教育課程の教員や看護職を対象にした文献を中心に検討を行った。土肥他（2012）は、若手教員が自らの役割遂行のために〈実習指導〉〈教育活動〉に関する学習ニーズを有することを報告している。酒井他（2015）は、指導者が実習指導を効果的に行うために、実習指導に関する基本的知識や学生への

関わり方に関する学習ニーズをもっていることを説明している。大澤（2019）の調査では、助手の職務遂行に伴う学習ニーズには、〈教員として展開すべき実習指導〉〈授業展開に必要な授業設計・授業の組織化とその評価〉を含む7つの特徴があることを示している。また、看護職の遺伝疾患における看護実践と学習ニーズに関する調査（佐藤他, 2018）では、対象者の6割以上が自らの看護実践に対して学習ニーズを感じていることが明らかにされている。

以上のことから、指導者が自らの教育実践や看護実践という役割遂行上直面する課題が、学習ニーズにつながるものが推察された。そこで、〈実践支援〉〈思考支援〉〈精神支援〉という下位概念で構成された学習支援（長野他, 2019）が〈道具デザイン〉〈組織デザイン〉〈活動デザイン〉という下位概念で構成された学習ニーズ（土肥他, 2015）に影響を及ぼすという仮説モデルを設定した（図1）。

V. 研究デザイン

本研究は、仮説検証型研究デザインである。

VI. 方法

1. データの収集方法

対象施設の選択は、株式会社ウェルネスの2次医療圏データベースシステムを活用し、一般病床数200床以上の病院300施設を無作為に抽出した。対象者については、教育指導者の背景が十分に明らかにされていないため、年齢や看護職の経験年数、職位を設定せず、各部署で学生や新人の教育指導を行う看護職とした。また、学生および新人に対する指導経験は、教育指導という観点から共通性および相違性があることが推察されるもののその比較検討ま

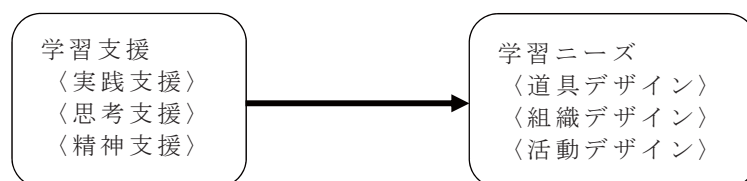


図1 教育指導者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響における仮説モデル

で至っていない。したがって、それぞれの特徴を明らかにする必要があると考え、本研究では、学生および新人の両方の経験を有する者と学生および新人のどちらかの経験を有する者が対象者となることを条件とした。各施設の対象者数は20名以内とし、看護管理責任者に研究への協力を文書にて依頼した。研究協力の承諾が得られた施設に対象者の人数分の研究協力依頼状、調査票、返送用封筒を送付し、対象者への配布を依頼した。研究協力の承諾が得られた101施設の指導者1,153名を対象に郵送法による自記式質問紙調査を実施した。データ収集期間は2017年11月～2018年3月である。

2. 調査内容

1) 学習支援

学習支援は、新人の育成(和住他, 2012)や臨地実習指導に関する文献(文部科学省, 2014)を参考に作成された項目であり、探索的因子分析および確認的因子分析を経て、学習者の実践的な支援を示す〈実践支援〉、学習者の思考の支援を示す〈思考支援〉、学習者の精神的な支援を示す〈精神支援〉の3因子15項目で構成されていることが明らかとなった(長野他, 2019)。本研究は、この学習支援を仮説の枠組みとして活用し、学習ニーズに及ぼす影響について検討することとした。学生と新人では、学習者特性や学習状況が異なることをふまえて質問紙は、“学生の指導経験を有する”と“新人の指導経験を有する”に分けて回答するように設計している。回答方法は、「1. 全く当てはまらない」から「5. とても当てはまる」の5段階評定で行う。

2) 学習ニーズ

学習ニーズは、指導者の育成プログラムへの取り組み(池内他, 2014)や学習環境デザインのプロセス(加藤他, 2003)を参考に作成された項目であり、探索的因子分析にて、学習者の学習活動を円滑にかつ健全に支援するための教材・教具を示す道具デザインに関する学習ニーズ(以下、道具デザイン)、豊かな学習環境をつくるために教育体制の質改善・向上のための組織的な取り組みや学習コミュニティの構築を示す組織デザインに関する学習ニーズ(以下、組織デザイン)、学習者の学習活動を維持・促進さ

せる方法を示す活動デザインに関する学習ニーズ(以下、活動デザイン)の3因子27項目で構成されていることが明らかとなった(土肥他, 2015)。回答方法は「1. 全く必要でない」から「6. 非常に必要である」の6段階評定で行う。

3) 教育指導者の背景

性別、年齢、看護職の経験年数、職位、学生および新人に対する指導経験年数である。

3. 分析方法

本研究では共分散構造分析を採用した。解析ソフトは、IBM® SPSS® Amos 27およびIBM® SPSS® Statistics 27を使用した。分析は、IBM SPSSテクニカルサポートを受けて実施した。

分析に先立ち、学習ニーズの構成要素について確認した。学習ニーズの探索的因子分析結果(土肥他, 2015)に照らして確認的因子分析を行った。内的整合性についてはCronbach's α 係数を算出した。指導者が行う学習支援が学習ニーズに影響を及ぼすという仮説に基づき、「学生の指導経験を有する指導者」および「新人の指導経験を有する指導者」の学習支援が学習ニーズに影響を及ぼす多重指標モデルを設定し行った。立案したモデルがどの程度受容できるものかを判定することが求められるため、モデルの評価にはGFI (Goodness-of-Fit Index), AGFI (Adjust Goodness-of Fit Index), CFI (Comparative Fit Index), RMSEA (Root Mean Square Error of Approximation)の適合度指標を採用した。変数間の因果関係を表すパラメータであるパス係数の有意性はC.R. (Critical Ratio: 検定統計量)にて判断し、1.96以上のものを統計学的に有意とした(Byrne, 2010)。

VII. 倫理的配慮

本研究は、大阪府立大学大学院看護学研究科研究倫理委員会の承認を得て実施した(申請番号: 29-38)。看護管理責任者の研究協力の承諾が得られた医療施設のみを対象とした。対象者には、研究目的、方法、研究への協力は自由意思であること、データは研究以外の目的で使用しないこと、個人情報の保護、データの保管、研究結果の公表について文書に

て説明した。回答は無記名とし、個別投函による調査票の返送をもって研究参加への同意を得たこととした。

VIII. 結果

1. 回答状況

指導者664名(回収率57.6%)から回答が得られた。学習支援と学習ニーズの両方に回答がないデータを除外し、621名(有効回答率53.9%)を分析対象とした。

2. 対象者の背景

指導者の背景を表1に示す。

3. 学習支援および学習ニーズの因子得点

学生の学習支援における平均値±標準偏差は、〈実践支援〉 28.9 ± 4.0 、〈思考支援〉 15.6 ± 2.4 、〈精神支援〉 16.7 ± 2.4 、全体で 61.2 ± 7.8 であり、新人では、〈実践支援〉 30.8 ± 3.5 、〈思考支援〉 17.1 ± 2.1 、〈精神支援〉 17.4 ± 2.2 、全体で 65.3 ± 6.7 であった。学習ニーズにおける平均値±標準偏差は、〈道具デザイン〉 52.5 ± 9.0 、〈組織デザイン〉 58.9 ± 8.1 、〈活動デザイン〉 14.9 ± 2.2 、全体で 126.3 ± 17.1 であった。

4. 学習ニーズの構成要素の検討

学習ニーズの構成(土肥他, 2015)にもとづき、〈道具デザイン〉〈組織デザイン〉〈活動デザイン〉の3因子を潜在変数とし、学習ニーズを2次因子とするモデルを設定して確認的因子分析を行った。誤差のなかに共通して影響を及ぼす要素(小塩, 2010)が推定される〈道具デザイン〉の文献クリティークとデータ分析の誤差変数(e2とe3)、〈組織デザイン〉の教育体制の整備と看護教育制度の構造の誤差変数(e13とe14)、人間関係の形成とメンタルヘルス対策の誤差変数(e23とe24)に共分散を設定した。

分析の結果、適合度指標は、 $GFI = 0.845$ 、 $AGFI = 0.816$ 、 $CFI = 0.910$ 、 $RMSEA = 0.075$ を示した。学習ニーズから〈道具デザイン〉〈組織デザイン〉〈活動デザイン〉へのパス係数はそれぞれ、0.70、0.98、0.83であった。また、C.R.は11.38～12.03を示し有意であった。〈道具デザイン〉から12の観測変数へのパス係数は0.63～0.83、C.R.が15.70～17.22を示し有意であった。〈組織デザイン〉から12の観測変数へのパス係数は0.70～0.78、C.R.が16.71～22.57を示し有意であった。〈活動デザイン〉から3つの観測変数へのパス係数は0.77～0.88、

表1 教育指導者の背景

	n	%	平均値	標準偏差
性別				
男性	47	7.6		
女性	574	92.4		
年齢			40.9	7.9
看護職の経験年数			18.0	7.8
職位				
看護師長	41	8.2		
副看護師長	103	20.6		
主任	106	21.2		
副主任	16	3.2		
スタッフ	234	46.8		
学生の指導経験を有する者	550			
指導経験年数			6.4	6.4
新人の指導経験を有する者	612			
指導経験年数			6.8	6.3

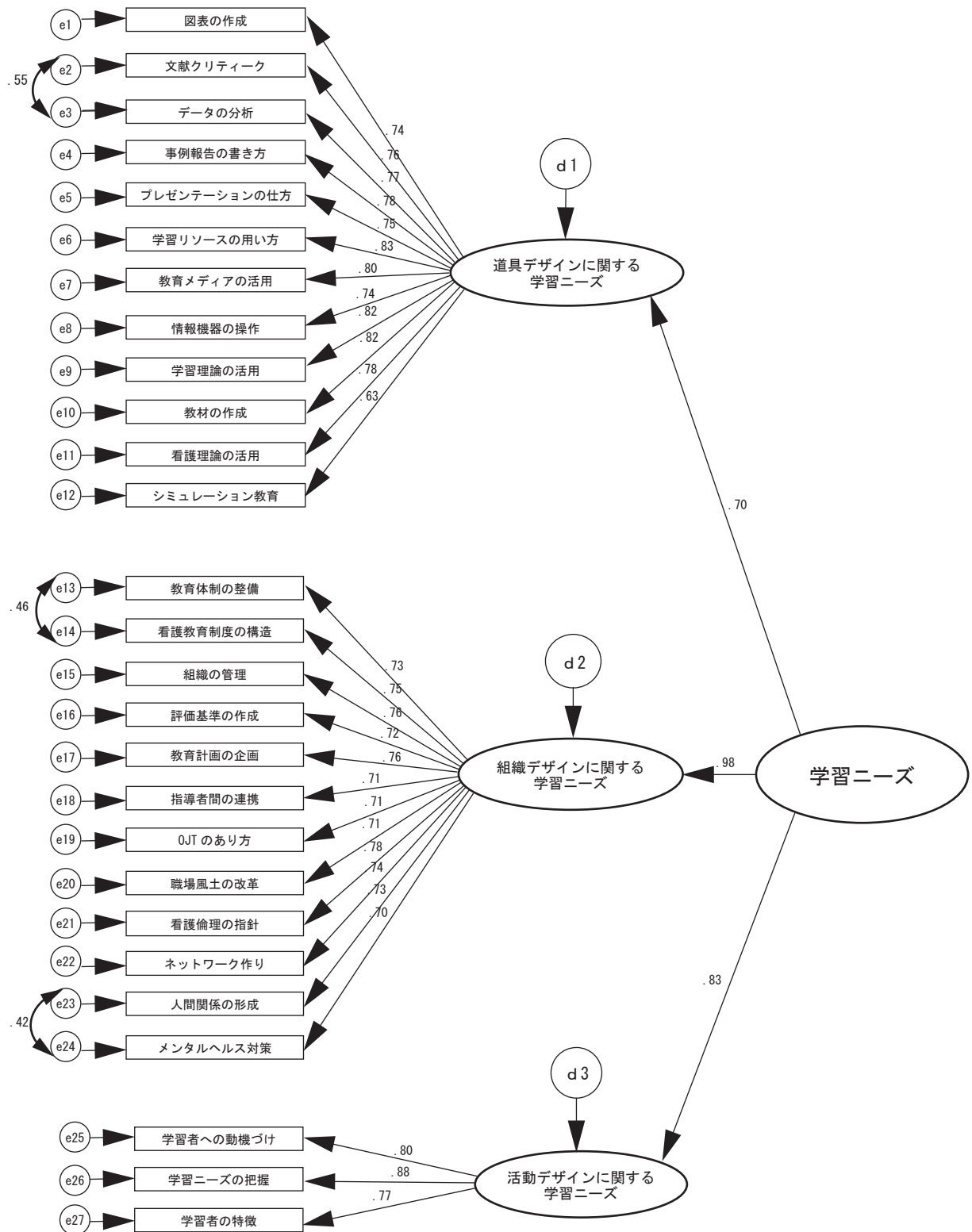


図2 学習ニーズにおける確認的因子分析の結果 (標準化推定値) n = 621
 適合度指標: GFI = 0.845, AGFI = 0.816, CFI = 0.910, RMSEA = 0.075

C.R.が20.37～22.19を示し有意であった。〈道具デザイン〉の文献クリティークとデータ分析、〈組織デザイン〉の教育体制の整備と看護教育制度の構造、人間関係の形成とメンタルヘルス対策の誤差変数間に認められた相関係数はそれぞれ、0.55, 0.46, 0.42であった。また、C.R.は8.83～10.92を示し有意であった(図2)。

Cronbach's α 係数による内的整合性の確認では、〈道具デザイン〉0.946, 〈組織デザイン〉0.934, 〈活動デザイン〉0.852, 全体では0.959であった。

5. 指導者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響の検討

1) 学生の指導経験を有する指導者の多重指標モデルの評価

適合度指標は、GFI = 0.991, AGFI = 0.976, CFI = 0.994, RMSEA = 0.042を示した。「学生の学習支援」から「学習ニーズ」へのパス係数は0.40, C.R.が7.55を示し有意であった。決定係数は0.16であった。「学生の学習支援」から〈実践支援〉〈思考支援〉〈精神支援〉へのパス係数はそれぞれ0.89, 0.72, 0.72, C.R.が15.13～15.86を示し有意であ

た。「学習ニーズ」から〈道具デザイン〉〈組織デザイン〉〈活動デザイン〉へのパス係数はそれぞれ0.70, 0.91, 0.80, C.R.が11.96～17.29を示し有意であった(図3)。

2) 新人の指導経験を有する指導者の多重指標モデルの評価

適合度指標は、GFI = 0.993, AGFI = 0.981, CFI = 0.997, RMSEA = 0.032を示した。「新人の学習支援」から「学習ニーズ」へのパス係数は0.34, C.R.が6.66を示し有意であった。決定係数は0.12であった。「新人の学習支援」から〈実践支援〉〈思考支援〉〈精神支援〉へのパス係数はそれぞれ0.90, 0.77, 0.71, C.R.が16.37～16.77を示し有意であった。「学習ニーズ」から〈道具デザイン〉〈組織デザイン〉〈活動デザイン〉へのパス係数はそれぞれ0.70, 0.92, 0.80, C.R.が16.84～17.08を示し有意であった(図4)。

IX. 考察

1. 学習ニーズの構成要素について

分析の結果、適合度指標は、GFI = 0.845, AGFI

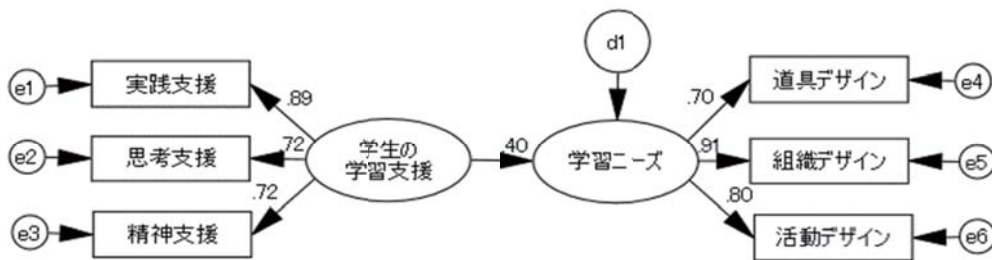


図3 学生の指導経験を有する指導者の多重指標モデル (標準化推定値) n = 550
適合度指標: GFI = 0.991, AGFI = 0.976, CFI = 0.994, RMSEA = 0.042

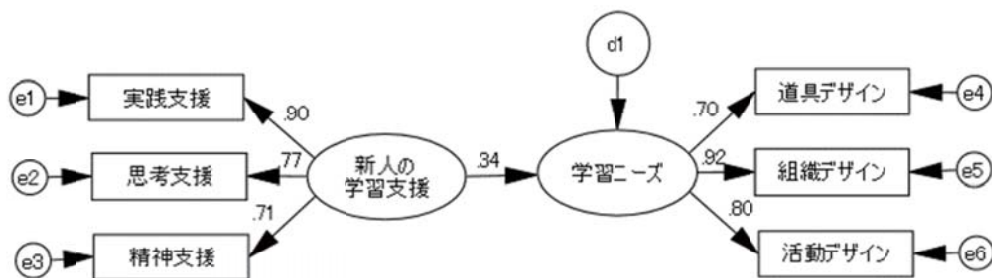


図4 新人の指導経験を有する指導者の多重指標モデル (標準化推定値) n = 612
適合度指標: GFI = 0.993, AGFI = 0.981, CFI = 0.997, RMSEA = 0.032

= 0.816, CFI = 0.910, RMSEA = 0.075を示したことから、本モデルの適合度指標は許容水準にあり、学習ニーズが〈道具デザイン〉〈組織デザイン〉〈活動デザイン〉の3因子で構成されていることが示された。学習ニーズから〈道具デザイン〉〈組織デザイン〉〈活動デザイン〉へのそれぞれのパス係数は高く、誤差変数間に認められた各相関係数では、中程度の正の相関関係が示された。学習ニーズは、因子分析の結果(土肥他, 2015)を参考に作成されたものであり、それに基づくモデルが許容水準内の適合度指標を得られたことから、構成概念妥当性が確保されたものと考えられる。各因子のCronbach's α 係数は0.80以上を示し、内的整合性が認められた(Polit et al., 2008)。よって、学習ニーズは、一定の信頼性と妥当性を有すると考えられる。

2. 指導者が行う学習支援が学習ニーズに及ぼす影響について

各モデルの適合度は高く、「学生の指導経験を有する指導者」および「新人の指導経験を有する指導者」が行う学習支援が学習ニーズに影響を及ぼすという多重指標モデルは、その因果関係を検討するためのモデルとして受容できると考えた。

「学生の指導経験を有する指導者」が学習支援の経験を通して高い学習ニーズを有することが示唆された。「学生の学習支援」から「学習ニーズ」へのパス係数は0.40を示し、中程度の影響力が示唆された。しかしながら、決定係数は低く「学生の学習支援」による説明率が16.0%であった。これには、学習ニーズが学習行動を動機づける(加澤, 2004)認知であることから、学習支援以外に個人の学習経験や組織の教育体制の違いなど他の要因が影響していることが考えられる。「学生の学習支援」の3つの観測変数のうち、〈実践支援〉へのパス係数が0.89と最も高かったことから、指導者が〈思考支援〉〈精神支援〉に比べて〈実践支援〉を重視していたことが推測される。学生にとって、昨今の多様な医療ニーズのなかで臨地実習を通して看護実践能力を身につけることの困難さ(中本他, 2015)や臨地実習における学生の能力評価(Immonen et al., 2019)が注目されるなどの背景から、指導者が実践家の育成

を目指し〈実践支援〉に尽力していたことが推察される。成人学習者は、日々直面している課題や関心事に対して学習ニーズを抱く傾向がある(Knowles, 1980/2012)ことから、教育指導者にとって〈実践支援〉が学生や新人の看護実践能力を左右する教育課題と認識し、その課題解決のために学習ニーズが高まったことがうかがえる。このことが要因となり、学習支援が学習ニーズに影響を及ぼしたことが考えられる。また、「学習ニーズ」の3つの観測変数のうち、〈組織デザイン〉へのパス係数が0.91と最も高く、指導者が学生の学習支援を行うために〈道具デザイン〉〈活動デザイン〉より〈組織デザイン〉を必要としている様子が見えらる。組織(ヒト)のデザインは、組織構成、制度、規則などをデザインすることによって、学びのコミュニティの形成・維持・再生産に一定の制約を課したり、他のコミュニティとの関係を再編成することが目的である(加藤他, 2003)。したがって、指導者が学習環境の充実を目指し、教育体制の質の改善・向上のための組織的な取り組みや学習コミュニティの設定のための学習を優先して求めていることが推察される。

「新人の指導経験を有する指導者」においても学習支援の経験を通して高い学習ニーズを有することが明らかにされた。「新人の学習支援」から「学習ニーズ」へのパス係数は0.34を示し、中程度の影響力が示されたが、決定係数の説明率は12.0%であり低い状態にあった。「新人の学習支援」の3つの観測変数では、〈実践支援〉へのパス係数が0.90と最も高く、次いで、〈思考支援〉〈精神支援〉の順で示された。根拠に基づく実践が重視されるなか、Eklund et al. (2021)は、新人にとって学部教育から臨床への移行は困難なプロセスであり、新人を学習者として重視し日常業務のなかで経験豊富な看護師の支援が必要であると述べていることから、指導者が学生から看護師への移行を助けるため、〈思考支援〉や〈精神支援〉より〈実践支援〉に力を入れていたのではないかと考える。改定された新人看護師研修ガイドライン(厚生労働省, 2014)では、実践能力が患者への看護を通して臨床実践の場で統合されるべきものと強調していることから、指導者

が意識的に〈実践支援〉を行っていたのではないかと推測される。ゆえに、学習支援が学習ニーズに影響するものと考えられる。「学習ニーズ」の3つの観測変数のうち、〈組織デザイン〉へのパス係数が0.92と最も高かった。このことは、「学生の指導経験を有する指導者」の分析結果と同様の傾向を示しており、指導者が学習環境の充実を目指し、教育体制の質の改善・向上のための組織的な取り組みや学習コミュニティの設定のための学習を優先して求めていることがうかがえる。

両指導者の学習支援の経験を「学習を促進する経験」(木村, 2012)としてとらえると、様々な学習支援の経験が、学生や新人という学び手の教育指導を行うために必要とする学習(土肥他, 2015)につながっていることが推察できる。両指導者の学習ニーズにおける決定係数は低いものの、両指導者が行う学習支援が学習ニーズに影響を及ぼすことが明らかになった。このことから、指導者の学習支援の経験が学習ニーズを高め、高められた学習ニーズを充足させることが学習環境の充実につながるものと考えられる。

3. 研究の限界と今後の課題

両指導者の多重指標モデルの適合度は良好であったものの、学習ニーズの決定係数が低かった。学習ニーズには、学習支援以外にも個人の学習経験や組織の教育体制の違いなど他の要因が影響していることが考えられるため、さらなる検討が肝要である。本結果をふまえ、指導者の学習ニーズの充足支援に関する研究を行うことが今後の課題である。

X. 結論

検討の結果、学習ニーズが〈道具デザイン〉〈組織デザイン〉〈活動デザイン〉の3因子で構成されていることが確認され、「学生の指導経験を有する指導者」および「新人の指導経験を有する指導者」が行う学習支援が学習ニーズに影響を及ぼすことが明らかになった。このことから、指導者が学習支援を通して高い学習ニーズを有し、高まった学習ニーズの充足が学習環境の向上・改善につながることを示唆された。

謝辞

本研究にご協力くださいました教育指導者の皆様に厚く御礼申し上げます。

本研究は、JSPS科研費JP16K11953の助成を受けて実施したものである。

利益相反

本研究における利益相反は存在しない。

文献

- Byrne BM (2010): Structural equation modeling with AMOS: Basic concepts, applications, and programming, Second Edition, 141, Routledge, New York.
- 土肥美子, 細田泰子, 星 和美 (2012): 看護系大学に所属する若手教員の学習ニーズとその関連要因, 大阪府立大学看護学部紀要, 18(1), 33-44.
- 土肥美子, 細田泰子, 中橋苗代, 他 (2015): 臨床における教育指導者の学習環境デザインに関する学習ニーズとその学習方法の検討, 大阪府立大学看護学部紀要, 21(1), 1-11.
- 土肥美子, 細田泰子, 中橋苗代, 他 (2016): 教育指導者の学習環境デザインにおける学習の必要性とその学習方法に関する教育責任者と教育指導者の認識の差異, 日本医学看護学教育学会誌, 25(2), 57-66.
- 土肥美子, 道重文子, 川北敬美, 他 (2018): 教育と臨床によるユニフィケーション体制の評価 - A 大学看護学部基礎看護技術演習に参加した教育指導者の学びと演習の継続に向けた課題の検討, 大阪医科大学看護研究雑誌, 8, 36-42.
- Eklunda A, Billett S, Nilsson MS (2021): A bridge over troubled water? - Exploring learning processes in a transition program with newly graduated nurses, Nurse Education in Practice, Volume 51, e102982.
- 池内香織, 細田泰子, 中岡亜希子, 他 (2014): 新卒看護職者や看護学生を支援する教育指導者の育成プログラムに関する取り組みとニーズ, 大阪府立大学看護学部紀要, 20(1), 1-8.
- Immonen K, Oikarainen A, Tomietto, M, et al. (2019): Assessment of nursing students' competence in clinical practice: A systematic review of reviews, International Journal of Nursing Studies, 100, e103414.
- Jafarian-Amiri SR, Zabihi A, Qalehsari MQ, et al. (2020): The challenges of supporting nursing students in clinical education, Journal of Education Health Promotion, 9, 1-6.

- 加藤 浩, 鈴木栄幸 (2003): 協同学習環境のための社会的デザイン, 加藤 浩, 有元典文 (編), 状況論的アプローチ2 認知的道具のデザイン, 176-180, 金子書房, 東京.
- 河上婦志子 (2010): III 教師の学習ニーズの諸相, 教員のキャリア形成に果たす神奈川大学の役割, 神奈川大学学術機関リポジトリ, 23-35.
- 加澤恒雄 (2004): ベタゴジーからアンドラゴジーへ—教育の社会的・実践的研究, 12-13, 大学教育出版, 岡山.
- 木村 充 (2012): 職場における業務能力の向上に資する経験学習のプロセスとは, 中原 淳 (編著), 職場学習の探求, 39-40, 生産性出版, 東京.
- Knowles MS (1980): *The Modern Practice of Adult Education: From Pedagogy to Andragogy*. Revised and updated, Prentice Hall, New Jersey. /堀 薫夫, 三輪建二 (2012): 成人教育の現代的実践ベダゴジーからアンドラゴジーへ, 58-67, 鳳書房, 東京.
- 厚生労働省 (2014): 新人看護職員研修ガイドライン【改訂版】. <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-Iseikyoku-Soumuka/0000049472.pdf> (2022年9月26日閲覧)
- 厚生労働省 (2020): 看護行政の動向, https://www.janpu.or.jp/mext_mhlw_info/file/doc04.pdf (2022年9月26日閲覧)
- 文部科学省 (2014): 臨地実習指導体制と新卒者の支援, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm (2022年9月26日閲覧)
- 長野弥生, 細田泰子, 片山由加里, 他 (2019): 教育指導者が行う新人看護師と看護学生への学習支援の共通性と差異, 大阪府立大学看護学雑誌, 25(1), 33-41.
- 中本明世, 伊藤朗子, 山本純子, 他 (2015): 臨地実習における学生の困難感の特徴と実習状況による困難感の比較—基礎看護学実習と成人看護学実習の比較を通して, 千里金蘭大学紀要, 12, 123-134.
- National League for Nursing (2022): *NLN Core Competencies of Academic Nurse Educators*, <https://www.nln.org/education/nursing-education-competencies/core-competencies-for-academic-nurse-educators> (2022年9月26日閲覧)
- 大澤康子 (2019): 看護系大学・短期大学に所属する助手の学習ニーズに関する研究, 日本看護学教育学会誌, 28(2), 25-37.
- 小塩真司 (2010): 共分散構造分析はじめの一步—図の意味から学ぶパス解析入門, 48-61, アルテ, 東京.
- Polit DF, Beck CT (2008): *Nursing Research, Generating and Assessing Evidence for Nursing Practice*. Eighth Edition, 491-492, Wolters Kluwer Health/Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia.
- Sadeghi A, Oshvandi K, Moradi Y (2019): Explaining the inhibitory characteristics of clinical instructors in the process of developing clinical competence of nursing students: a qualitative study, *Journal of Family Medicine Primary Care*, 8 (5), 1664-1670.
- 酒井禎子, 中澤紀代子, 石田和子, 他 (2015): 看護学実習指導者が感じている指導上の困難と学習ニーズ, 新潟県立看護大学紀要, 4, 12-16.
- 佐藤裕子, 斎藤加代子, 日沼千尋 (2018): 遺伝医療における看護実践の現状と学習ニーズ調査, 東京女子医科大学雑誌, 88(5), 118-123.
- 和住淑子, 黒田久美子, 白川秀子, 他 (2012): 新人看護師教育担当者育成モデルプログラムの開発と試行, 千葉大学大学院看護学研究科紀要, 34, 45-50.